

令和3年度 学校評価アンケート結果

1 学校教育目標

教育基本法に基づき、校訓「いのちを大切に」を体し、知性豊かで、人間尊重の精神に徹し、心身ともに健康で、自主性、創造性に富んだ、たくましい実践力をもった人間を育成する。

2 見方

- 1, そう思う 2, ほぼそう思う → +
 3, あまり思わない 4, 思わない → =
 5, 分からない → + -

以上の3段階で考察しています。

3 保護者回答率

回答数(人) / 総数(戸数) = %
 242 249 97%

4 結果(考察)

生徒、保護者の回答の「そう思う」、「ほぼそう思う」(肯定的な意見)の合計の割合(%)は昨年度をおおむね上回っている。令和元年度から2年度にかけて、全18項目質問のうち、生徒は12項目、保護者は13項目、教職員は3項目で割合が増加しており、高い数値に達した。それを受けての今年度は数値の大きい伸びは難しいと思われるものの、生徒は12項目において昨年度の値を上回っている。具体的には、2-2「学校や学級の決まりを守っている」、3-1「教員は適切な指導ができています」、3-2「情熱を持った教員が多い」、3-3「教員はいじめなどの問題に真剣に取り組んでいる」、4-2「学習評価は適切である」、5-1「学校行事は楽しい」、5-2「学校行事は伝統の継承に役立つ」、6-1「部活動担当教員は情熱を持って指導している」6-2「生徒は部活動に熱心だ」7-1「学校からの情報は十分にある」7-3「体験学習やゲストティーチャーを招いての授業は適切である」の項目が昨年度を上回っている。また、上回ってはいないが、2-1「思いやりを持って行動できている」、9-1「通う学校が那賀川中学校でよかった」は比較的高い数値で横ばいである。生徒は那賀川中学での生活に関して、年々満足度を上げているといえる。

それと比べると保護者はほぼすべての項目において数値が下がっている。コロナ禍で保護者に参加していただける学校行事がほぼなくなったこと、生徒の満足度は比較的高いものの、思春期でもあり、そのことを家庭で伝える機会が減ってきていることなどが考えられるのではないかと。教職員は8項目で数値の情報や日頃の生徒指導の成果があらわれてきていると思われる。

昨年度よりも低い項目として目立つものには、8-1「少人数学級による教育成果」、7-3「体験学習・ゲストティーチャーは適切である」の2項目が挙げられる。これは、学校が落ち着いていることもあり、昨年度は2学年(2, 3年生)を自校努力で4学級にしていたところを今年度は、1学年のみ(3年生)で行っている影響があると考えられることや、実際実施していない学年にはその成果を計ることができないのが現実であると考えられる。また、今年度はコロナ禍のため、遠足はなんとか行えたもののいろいろな制限が加えられたり、修学旅行の延期があったり、例年2年生で行う職場体験も実際の職場に出る行うことができなかったということが大きく影響しているのではないかと。

(1) 【学校生活に関すること】 個性的で魅力的な学校づくり, 施設・設備

1-1 校風伝統を生かした学校作り

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



校風伝統を生かした学校作り						
1-1	そう思う		ほぼそう思う		合計	
	R2	R3	R2	R3	R2	R3
生徒	49	49	34	32	83	81
保護者	15	19	59	52	74	71
教職員	46	33	42	56	88	89

1-2 施設設備

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



施設設備						
1-2	そう思う		ほぼそう思う		合計	
	R2	R3	R2	R3	R2	R3
生徒	70	60	26	35	96	95
保護者	27	37	56	52	83	89
教職員	33	52	54	41	87	93

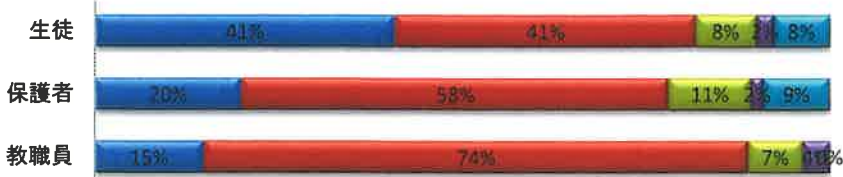
1-1 「校風伝統を生かした学校作り」では生徒、保護者の数値は昨年より上がっているものの、保護者については74%止まりである。教職員は低下している。

コロナ禍で学校行事を実施したものの、いろいろな制限があり、昨年度と比べると十分なものになっていないという意識の表れかもしれない。

(2) 【生徒の生活に関すること】 他人への思いやり・学校の決まりを守る。

2-1 思いやりを持って行動できている

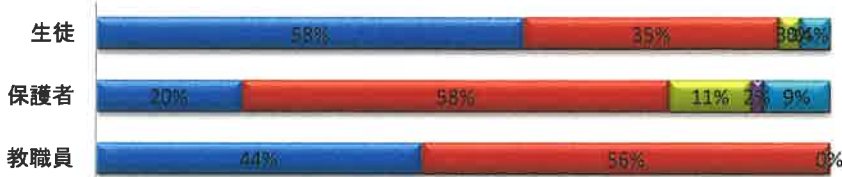
■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



		思いやりを持って行動できている					
2-1		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R2	R3	R2	R3	R2	R3
生徒	42	41	40	41	82	82	
保護者	15	20	65	58	80	78	
教職員	13	15	83	74	96	89	

2-2 きまりを守っている

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



		きまりを守っている					
2-2		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R2	R3	R2	R3	R2	R3
生徒	58	58	32	35	90	93	
保護者	15	20	65	58	80	78	
教職員	33	44	63	56	96	100	

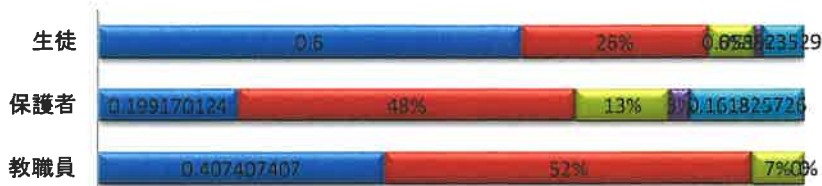
最初のページでも考察したが、2-1「思いやりを持って行動できている」では生徒、保護者、教職員とも昨年よりも数値が上がり、特に保護者や教職員の数値の増加が大きいことから、生徒の自己満足ではなく、しっかりと行動に表せているということではないか。

また2-2「きまりを守っている」の数値も保護者や教職員の数値が伸びている。これも同様であると考えられる。教職員の数値が96%に達しているということは生徒のほとんどがきまりを守り、落ち着いた学校生活を送れているということである。今後とも、この数値を維持したい。

(3) 【教職員に関すること】教職員の指導姿勢・情熱

3-1 教師は適切な指導ができている

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



		教師は適切な指導ができている					
3-1		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R2	R3	R2	R3	R2	R3
生徒	49	60	33	26	82	86	
保護者	20	20	55	48	75	68	
教職員	33	41	58	52	91	93	

3-2 情熱をもった教職員が多い

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



		情熱を持った教員が多い					
3-2		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R2	R3	R2	R3	R2	R3
生徒	53	64	36	28	89	92	
保護者	22	23	55	48	77	71	
教職員	46	41	46	52	92	93	

3-3 先生のいじめなどへの対応

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない

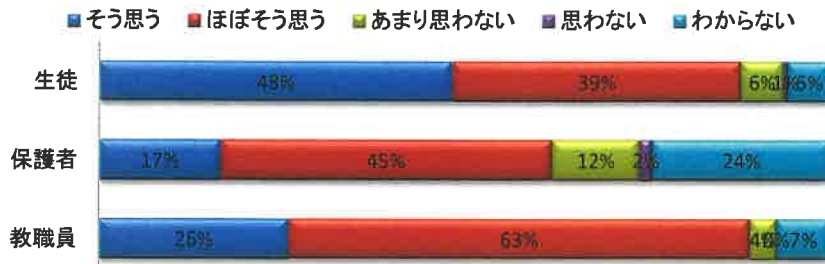


		先生のいじめなどへの対応					
3-3		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R2	R3	R2	R3	R2	R3
生徒	53	64	36	28	89	92	
保護者	22	23	55	48	77	71	
教職員	46	41	46	52	92	93	

3項目とも、生徒、保護者の教職員に対する評価は向上している。ただ、これに満足することなく、限りなく100%に近づけていけるようにしなければならない。

(4) 【授業に関すること】授業はわかりやすい・適切な評価

4-1 授業はわかりやすい



		授業はわかりやすい					
4-1		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R2	R3	R2	R3	R2	R3
	生徒	44	48	44	39	88	87
	保護者	17	17	53	45	70	62
	教職員	29	26	58	63	87	89

4-2 学習成果を適切に評価している



		学習評価を適切に評価している					
4-2		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R2	R3	R2	R3	R2	R3
	生徒	52	60	30	26	82	86
	保護者	19	22	54	47	73	69
	教職員	46	48	46	41	92	89

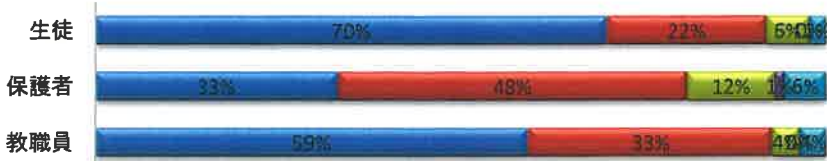
2項目とも生徒、保護者の数値は上がっている。4-1「授業はわかりやすい」において生徒の「そう思う」は29%から44%へと上昇し、「ほぼそう思う」を入れると88%、ほぼ9割の生徒がわかりやすいと感じている。本校ではICTを積極的に取り入れ、デジタル教科書、タブレット、プロジェクターなどを普通の授業で活用していることや、まなボード（ホワイトボード）を用いてのグループ討議なども活発に行われていることのあらわれだと感じている。

評価については昨年に比べて数値は上昇しているものの、保護者の数値が73%にとどまっている。面談などの機会を通して、説明責任を果たすこと、また、来年度から評価の基準が変わることなどについても、きちんと説明しておくことが必要であろう。

(5) 【学校行事に関すること】生徒にとって楽しい・学級のまとまりや伝統の継承

5-1 学校行事は生徒にとって楽しい

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



		学校行事は生徒たちにとって楽しい					
5-1		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R2	R3	R2	R3	R2	R3
生徒	69	70	22	22	91	92	
保護者	35	33	53	48	88	81	
教職員	63	59	29	33	92	92	

5-2 学校行事は伝統の継承に役立つ

■ そう思う ■ ほぼそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない ■ わからない



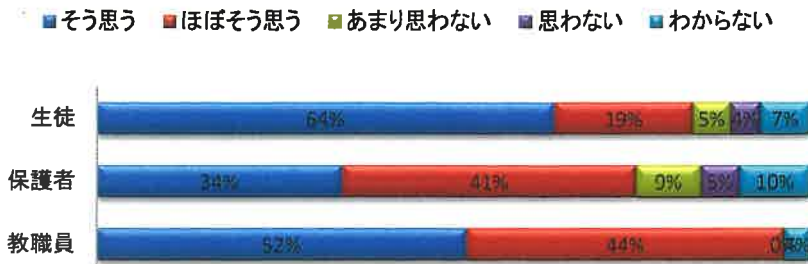
		学校行事は伝統の継承に役立つ					
5-2		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R1	R2	R1	R2	R1	R2
生徒	44	44	37	36	81	80	
保護者	22	21	52	56	74	77	
教職員	58	42	42	46	100	88	

この項目では、昨年度と比べ、数値があまり伸びなかった。本来であれば創立50周年の記念式典を実施するはずであったが、コロナ禍のため中止せざるを得なかった。その式典が行われていれば、那賀川中学校の歴史を振り返るよい機会となり、伝統の継承の役に立ったに違いない。残念ではあるが、現在記念誌発行に力を注いでいる。式典は中止となったが、その記念誌などを通して各家庭でも那賀川中学の歴史について振り返って欲しい。

また、来年度もコロナの問題はすぐには解決しないと思われる。しかし、今年度の経験を生かし、制限があるなかでも、コロナ対策を行いながら、生徒とともに創意工夫を凝らし、充実した学校行事を計画していきたい。

(6) 【部活動に関すること】教師の情熱を持った指導・生徒の意欲的な取組

6-1 部活動担当教員は情熱を持って



		部活動担当教員は情熱を持って指導している					
6-1		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R2	R3	R2	R3	R2	R3
生徒	63	64	19	19	82	83	
保護者	36	34	40	41	76	75	
教職員	58	52	29	44	87	96	

6-2 生徒は部活動に熱心だ



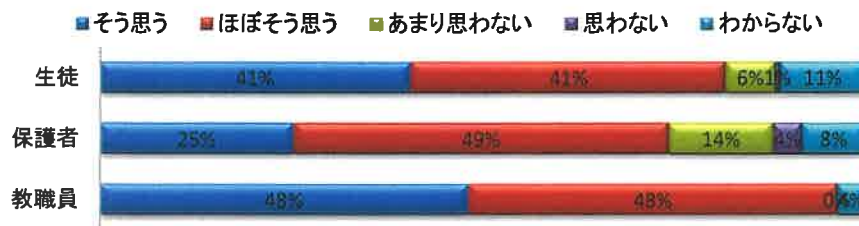
		生徒は部活動に熱心だ					
6-2		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R2	R3	R2	R3	R2	R3
生徒	59	63	22	22	81	85	
保護者	38	41	48	45	86	86	
教職員	42	44	54	52	96	96	

6-1「部活動担当教員は情熱を持って指導にあっている」という項目では生徒の6割以上が「そう思う」と答えており、「ほぼそう思う」を合わせると82%になり、昨年度の76%を上回る結果となった。しかしながら、「そう思う」と答えている保護者は36%にとどまっている。生徒が小学校の時ほど学校のことを話くなったり、保護者が部活動を見る機会は試合のみになってきたりするのでこのような結果になるのかもしれない。那賀川中学校の職員は部活中にはほとんどきちんと指導に向いている。普段の部活動を保護者の方に見ていただく機会があればよいのかもしれない。（現在はコロナ禍で難しいが。）

今年度は試合などの数も減ったが、素晴らしい成果を残した部もある。また、駅伝においては女子は県優勝などの輝かしい成果を残している。部活動をはじめ自主的な駅伝の朝練習にも積極的、継続的に取り組んできた結果だと思う。そのことは、保護者や教職員も実感しているのではないかと。

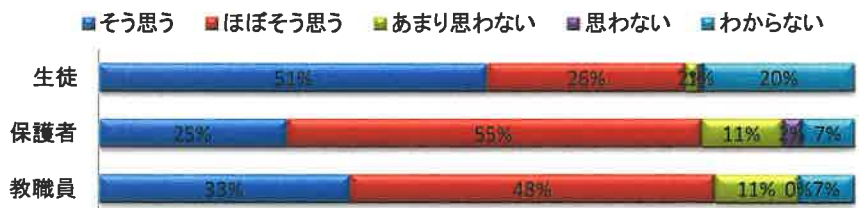
(7) 【開かれた学校づくりに関すること】 情報公開・参観日・面談・体験学習等

7-1 保護者に対する情報の提供



		保護者に対する情報の提供					
7-1		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R2	R3	R2	R3	R2	R3
生徒	42	41	35	41	77	82	
保護者	25	25	54	49	79	74	
教職員	38	48	50	48	88	96	

7-2 参観日や面談は適切である



		参観日や面談は適切である					
7-2		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R2	R3	R2	R3	R2	R3
生徒	54	51	23	26	77	77	
保護者	29	25	58	55	87	80	
教職員	50	33	38	48	88	81	

7-3 体験学習・ゲストティーチャーは適切



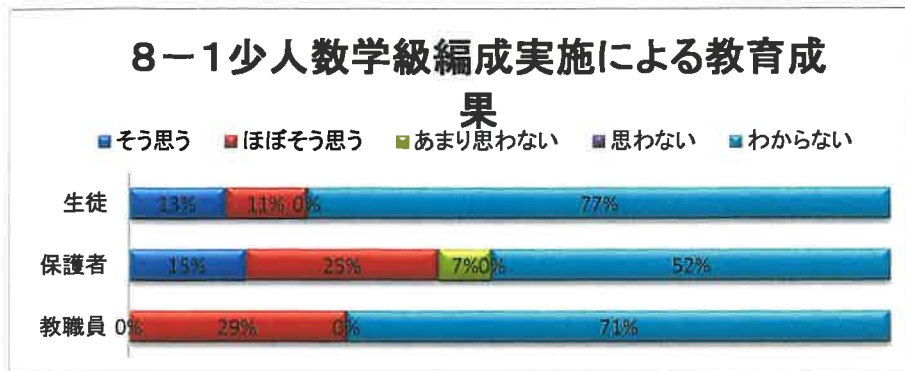
		体験学習・ゲストティーチャーは適切か					
7-3		そう思う		ほぼそう思う		合計	
		R2	R3	R2	R3	R2	R3
生徒	48	59	31	29	79	88	
保護者	12	16	45	43	57	59	
教職員	25	41	63	37	88	78	

7-1 「学校から保護者への情報は十分に提供できている」には約80%に達しているが、ホームページやまちコミを有効に活用することで、より、満足してもらえよう努めていきたい。

7-2 「参観日や面談は適切である」については、最初に述べたが、コロナ禍ではあったものの昨年とほぼ変わらない状況である。今年度もコロナ対策をしながら、積極的に取り組んでいきたい。

7-3 「体験学習・ゲストティーチャーは適切」については満足度はやはり減少している。参観日などと同様、コロナ対策に万全を期しながら、生徒たちが満足できる体験学習を計画したり、生徒や保護者のニーズに合ったゲストティーチャーを迎えての授業を前向きに検討したい。

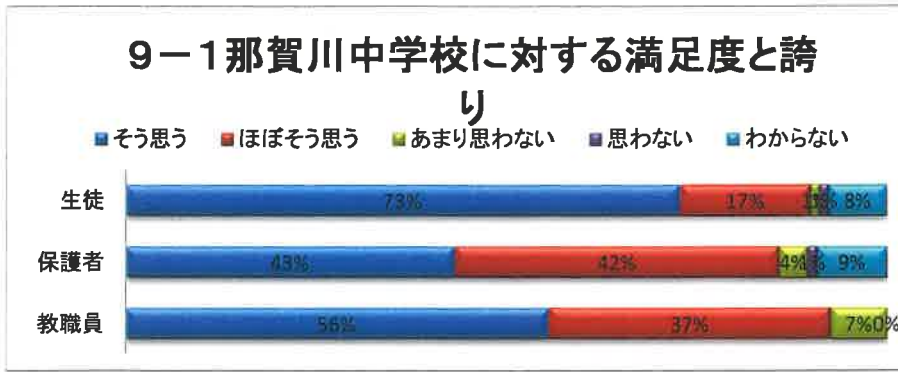
(8) 【少人数学級編制実施による教育成果】



8-1	そう思う		ほぼそう思う		合計	
	R2	R3	R2	R3	R2	R3
生徒	21		13		34	0
保護者	20		36		56	0
教職員	50		29		79	0

前にも述べたが、自校努力で3年生を4学級にしている。今年度は1, 2年生では実施していないため、教育効果を問われても3年生以外はわからないのが現状であろう。教職員にとっては、生徒一人ひとりに目が届きやすい環境であり、約80%の教員がその効果を認めている。しかしながら、一学級の生徒数が20名程度となり、学級内で安心できる友人関係を作ることが困難になるという問題が生じる傾向があるが、今年度は大きなトラブルはほとんどなかった。

(9) 【那賀川中学校の教育全体に対する信頼と誇り】



那賀川中学校に対する満足度と誇り						
9-1	そう思う		ほぼそう思う		合計	
	R2	R3	R2	R3	R2	R3
生徒	66	73	24	17	90	90
保護者	44	43	45	43	89	86
教職員	36	56	44	37	80	93

9-1「那賀川中学校に対する誇り」は生徒、保護者ともに昨年度より満足度が高まっている。生徒の90%が満足している。ただ、この数字に甘んじることなく、「那賀川中学校の生徒でよかった。」と感じる子どもが一人でも増えるように努力していきたい。しかし、教職員の満足度が下がっているのが気になる。教職員のメンタルヘルスにも努めながら、よりよい那賀川中学校を作っていきたいと思う。